

授業科目名	計量経済学	学 年	3 年	単位数	4	開設期	後期
担当教員	河田 正樹	指 定	選択	備 考			

授業のねらい・概要

計量経済学とは、経済諸現象の背後にある関係を数量的に把握するための方法であり、経済理論をデータを用いて統計的手法によって分析することです。

今日ではコンピュータを用いて、誰でも手軽に計量経済分析をおこなうことができます。しかし、その結果を解釈することができなければ分析をおこなう意味はまったくありません。この講義では Excel や計量経済分析ソフト TSP を用いて実際の経済データについての分析をおこなうとともに、結果を解釈するための理論を学びます。

学習の到達目標

学部レベルの計量経済分析を、TSP を用いておこない、その結果の解釈ができるようになります。

授業全体のすすめ方・指示事項

この講義は理論面の講義とコンピュータ実習の両面から成り立っています。

講義科目『統計学』『経済データ解析』を履修済みであることを前提としています。未履修の人は本年度前期までに履修するか、同等の内容を自習することによって補ってください。

講義内容の理解を助けるために、随時練習問題をおこないます。(講義時間中または宿題)

授業計画

第 1 回	ガイダンス	第 16 回	重回帰分析(1)
第 2 回	統計学の準備(1)	第 17 回	重回帰分析(2)
第 3 回	統計学の準備(2)	第 18 回	重回帰分析(3)
第 4 回	統計学の準備(3)	第 19 回	重回帰分析(4)
第 5 回	統計学の準備(4)	第 20 回	回帰分析の諸問題(1)(1)
第 6 回	統計学の準備(5)	第 21 回	回帰分析の諸問題(1)(2)
第 7 回	単純回帰分析(1)	第 22 回	回帰分析の諸問題(1)(3)
第 8 回	単純回帰分析(2)	第 23 回	回帰分析の諸問題(1)(4)
第 9 回	単純回帰分析(3)	第 24 回	回帰分析の諸問題(1)(5)
第 10 回	単純回帰分析(4)	第 25 回	回帰分析の諸問題(2)(1)
第 11 回	単純回帰分析(5)	第 26 回	回帰分析の諸問題(2)(2)
第 12 回	単純回帰分析(6)	第 27 回	回帰分析の諸問題(2)(3)
第 13 回	単純回帰分析(7)	第 28 回	連立方程式モデル (1)
第 14 回	単純回帰分析(8)	第 29 回	連立方程式モデル(2)
第 15 回	単純回帰分析(9)	第 30 回	まとめと復習

成績評価の方法

期末試験とレポート(1回)の合計点で評価します。レポートや試験のためには、日頃からの努力が必要です。

成績評価の基準

成績評価の項目	具体的な内容与方法	評価割合(%)
定期試験(期末試験)	試験期間に期末試験を実施します。	50
授業内のレポート	TSP を用いた実証分析をおこない、その結果についての考察をレポートにまとめてもらいます。	50
平常点評価 (小テスト、発表、グループ作業の成果、授業態度、出席状況)	コンピュータ実習において、出席不良者への対処が講義進行の妨げとなることがあります。このような出席不良者に対し、単位修得の見込みがないことを告知することがあります。 また、欠席した場合は、教科書・講義スライドなどによってその部分を自習してください。	
合計		100

教科書	水野勝之『テキスト計量経済学(第2版)』中央経済社 3360 円
参考書・指定図書等	白砂 堤津耶『[例題で学ぶ] 初歩からの計量経済学』[第2版] 日本評論社 2940 円 縄田 和満『TSP による計量経済分析入門』(第2版) 朝倉書店 3150 円
メッセージ	より詳しい情報は講義用 HP(http://www2.tokuyama-u.ac.jp/kawada)に掲載しますので、そちらも参照してください。 計量経済学をきちんと理解することは容易なことではありません。私のほうもなるべくわかりやすい講義をおこなうつもりですが、ただ授業に出席しているだけで理解することは不可能でしょう。毎回授業に出席し、宿題として出された練習問題をこなすなどの復習をきちんとおこなう意欲のある学生のみ履修するようにしてください。